

令和6年度 終了式 式辞

昨日、厳肅な雰囲気の中で卒業式が行われました。卒業生が名前を呼ばれた時の返事の声、胸を張って堂々と歩く姿勢、卒業生答辞、卒業合唱の歌声、どれをとってもとても立派で、感動的な卒業式になりました。

このように立派で感動的な卒業式を実施することができたのは、1,2年生の皆さんが心を込めて様々な準備や行動をしてくれたおかげです。本当にありがとうございます。3年生がいなくなったこれからの南中を背負っていくのは君たちです。これからの南中をよろしく願います。

さて、今日は修了式、1年生、2年生のそれぞれの学年の教育活動が無事に修了し、次の学年へ進む証明をいただく日になります。この1年皆さんは本当によく頑張りました。ただ、皆さんが今日という日を迎えられたのは、皆さんだけの力だけではなく、仲間、先生方、家族、地域の方々などの温かいご支援があったおかげです。そのことへの感謝の気持ちを忘れずにいてください。そして、今日は、ぜひ、お世話になった全ての人に、今年1年の感謝の気持ち「ありがとう」を伝えるようにして下さい。

今年度、南中は「ウエルビーイング」を合い言葉に、4つのキーワードに沿った教育活動を行ってきました。皆さんや先生方の努力のお陰で、今年1年で、ウエルビーイングの考え方が随分浸透し、4つのキーワードを意識した主体的な行動や、自己表現、そして、皆を楽しませたり、幸せにしようとしたりする行動がたくさん見られるようになったと思います。何よりその姿を見ていた私自身が本当に幸せな1年を過ごせたと感じています。本当にありがとうございます。

ここで、4月から新学年を迎える皆さんに1つの言葉を紹介します。

「一隅を照らす人になれ」。この言葉は、皆さんも知っている、平安時代に比叡山を開いた「最澄」の言葉から引用しました。「一隅」とは、今一人ひとりがいるその場所のことであり、学校に当てはめると、皆さんが所属する学級や委員会、部活動などになると思います。「一隅を照らす」とは、各自が置かれた持ち場で、精一杯努力し、最善を尽くすことが自然と周囲の人々の心を打ち、心に響くことでお互いが助け合い、温かい思いやりの心が自然に広がっていくということです。つまり、自分が今いる場所や立場で最善を尽くすことが、結果的に全体を良くすることに繋がるということです。皆さんには、クラスや環境が変わってもぜひそんな人になってもらいたいと思います。

明日から18日間の春休みとなります。この春休みが皆さんにとって、次の学年に進級するための心構えや決意をしっかりと作る、そんな時間になってくれることを期待します。充実した春休みを過ごして下さい。以上式辞といたします。